献　呈　の　辞

新潟大学法学会会長
上　山　　泰

この度、兵藤守男先生は2024年3月末をもってご定年を迎えられ、本学を退職されます。

新潟大学法学会会員一同、兵藤先生のこれまでの長年のご貢献に心より感謝し、そのご業績を讃えて、ここに「法政理論」の記念号を献呈させていただきます。

兵藤先生は、東京大学法学部をご卒業後、東京都立大学大学院社会科学研究科を経て、同大学法学部助手を務められました。1996年4月に新潟大学法学部に助教授として赴任され、その4年後の2000年8月に教授にご昇任されました。

兵藤先生は、法学部・大学院法学研究科および大学院現代社会文化研究科において、主に政治学・西洋政治史をご担当になりました。その広汎な知識を背景にした、学生自身の思い込みを揺さぶる授業を通じて、多くの学生が政治学の素養を身に着けることができました。また、これらの専門科目に加えて、先生は導入教育にも情熱をもって取り組まれ、2001年から2020年までの長きにわたって、大学生としての心得、レポート作成方法、プレゼンテーションの技法などをご教授されました。先生が初年次学生にこれらの基礎的な考え方や技法を丁寧にご指導されたことが、他の教員の教育活動にとっても大きな助けになったことは疑いようもありません。

兵藤先生のご研究を貫いたモティーフは、政治的統合であったように見受けられます。その博士学位請求論文では、伝統的に政治的統合が課題であったドイツにおいて、第二次世界大戦後の西ドイツ政界が如何に成立し

たのかを明らかにされ、その後は政治的統合のための一要素である大統領・君主の機能について検討を深められました。そしてその思索は、政治的統合を下支えする保守主義論、また政治的統合と密接な関係をもつ言語の表記問題へと進められました。個人を尊重して過度な統合には批判的でありつつ、その意義と可能性を追求されたご業績は、政治学の道を歩む後進にとって大きな道標となっています。

多忙な学術研究生活を過ごされるなか、兵藤先生は、国立大学の法人化という戦後の新制大学発足以来の大変革のただ中にあって、大学本部での法人化移行に伴う諸制度の原案作成をはじめとして、新潟大学評議員、法学部副学部長、法学部長代行の職を歴任され、大学の運営にも多大な貢献をされました。学部運営における先生のご発言を振り返るとき、政治的統合に対するご自身の思索の蓄積に裏付けられたものであったことに、今更ながら思い至ります。ご定年という避けがたい事情とはいえ、教授会などでの先生の温かみのある論理的立論を伺うことができなくなるのは本当に残念です。

あらためまして、本年3月にご定年にて退職されるにあたり、これまでの新潟大学全体、ならびに多くの学生、社会への多大なるご貢献に心より感謝申し上げますとともに、今後もお元気でご活躍されますことを、新潟大学法学会会員一同ご祈念申し上げます。

2024年3月吉日